

2



0001507-000

特254-191

吳佩孚將軍逸見十朗語る

逸見後援会本部

第3版  
昭和14

AAC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

特254

191

# 吳佩孚將軍

快男兒 幕下猛將張漢郷

## 逸見十朗語る

大獅々吼「集」

支那語五百餘!!

73  
◎戦捷と其の後に來たるものは何?

3  
4



特254  
191

目次

口繪寫眞

逸見十朗氏……………

西郷南洲先生墓前の逸見氏……………

はしがき…………… 盟友……………

讀者のみなさまへ…………… 逸見十朗……………

事變下の陸軍記念日を迎へて…………… 陸軍大將 井上幾太郎閣下……………

支那事變の遠因近因を語り皇軍の倫理と防共陣に及ぶ…………… 逸見十朗……………

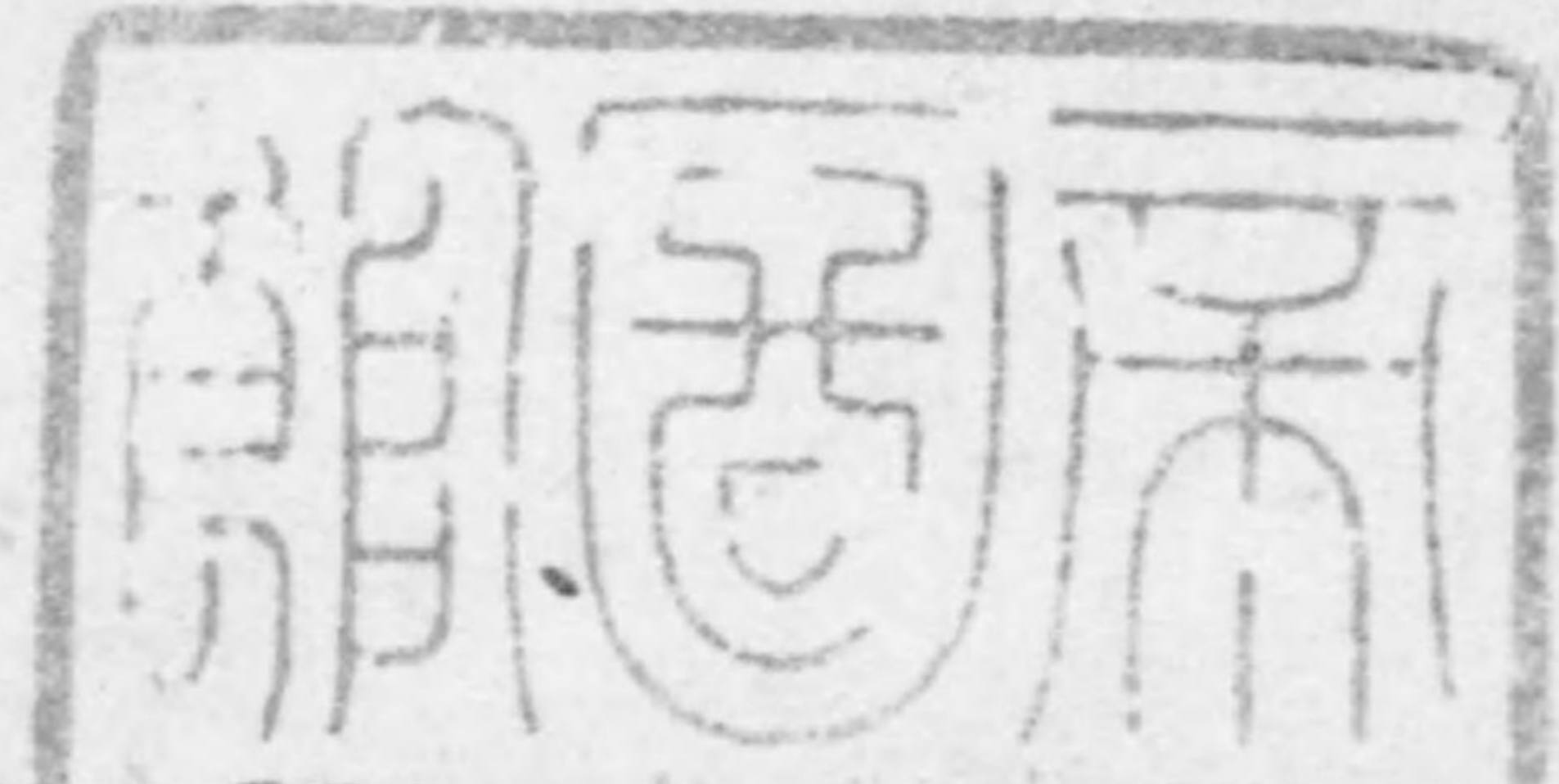
元支那軍事顧問楠山中將閣下の講演批評…………… 逸見十朗……………

日本建國之大精神に就いて…………… 逸見十朗……………

先づ支那語を研究して(支那語)…………… 逸見十朗……………

それから支那問題に進ませう…………… 逸見十朗……………

十朗の心境と當選標語…………… 逸見十朗……………

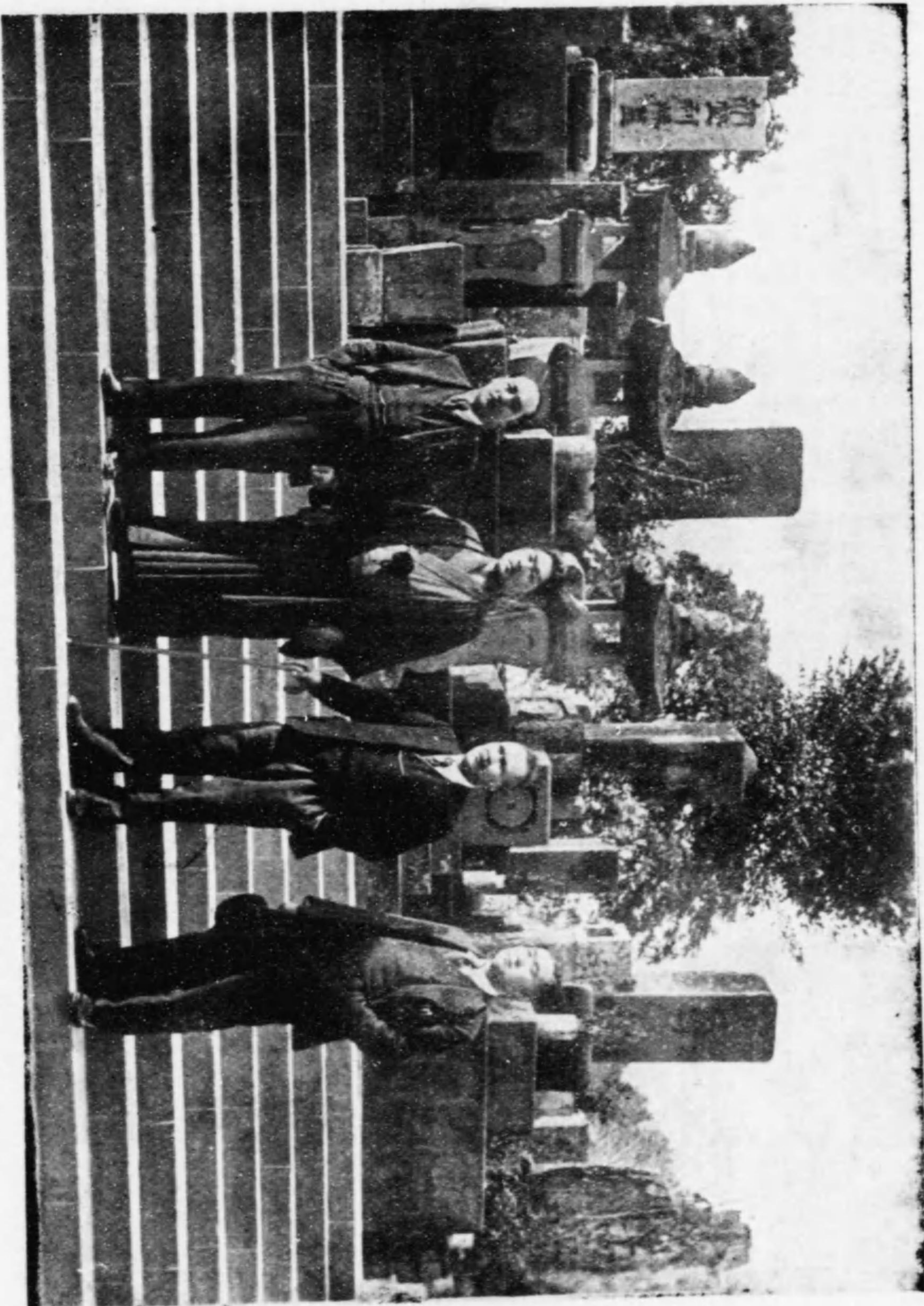






支那活躍時代の逸見十郎





講大催主開新島兒鹿て於に市島兒鹿日九十月二年四十七和昭  
 る祈を運武の兵將軍皇に前墓生先洲南郷西り砌の席出會演  
 氏田澁・氏地平・氏見逸・氏尾中より右てつ向

「はしがき」

聖戰三年皇軍の武勳は赫々と輝き同時に大陸に於ては、新支那政權の手に  
 より、新に日本と緊密なる提携の下にアジア再興の一大工作が著手せられん  
 とし、また日本指導下興亞建設の大業が華々しく且つ堅實に進められんとし  
 てゐる。破壊と建設、これこそ支那が直面する重大なる岐路である、此の事  
 變下に於いて長期戦に對して、支那の政治、財政、經濟を始め各部門に亘り  
 現時局を日本人に眞に認識せしめ又將來を示唆する唯一の指導者を求めんと  
 するは我等日本人のひとしく望む所である、吾人は此處に盟友、逸見十朗氏  
 を擧げて國民に推擧する者なり、氏は貧しき武門の家に孤々の聲を擧げ、幼  
 少にして兩親を失ひ僅かの薄縁に養はれ漸くにして、軍人と成りしも感ずる  
 處あつてか、軍刀を捨て奮然立ち天涯孤獨の身をもつて滿洲へと放浪の旅に



門出した、時は恰も日露の國交は斷絶し、茲に宣戰の詔勅は國民に下された

り。  
彼れの全身に漲る、其の英雄的素質は潮の如く迸り加ふるに、一面に潜む緻密なる頭腦と相俟ちて彼れが活動は實に目ざましきものなりき、或時は破れたる支那服を身に纏つて苦力の仲間に入り、又或時は馬賊の群に投じ白馬に騎りて部下を叱咤す。斯くして彼れが率ゆる馬賊軍の出没は常に我皇軍の背後を援け敵を惱ましたる事はそも幾度ぞ。其の後續いて起る、清室の崩壊。辛亥革命の戦亂。やがて起りし青島の戦ひ等何れも参加せざるは無く、又或時支那革命の巨頭孫逸仙と共に其の身を祖國に寄せ、出ては悍馬に鞭を打ち敵の心膽を寒からしめ、而して彼れの心中には果して何を秘められし？多感多情の彼は第二奉直戰に吳佩孚將軍幕下に張漢卿と稱して一方の謀將として活躍せしも戦ひ利あらずして、敗殘の身を逃れて渤海灣上遙か祖國を

望みて涙流せし事もそも幾度なりしか。

斯くも東奔西走實に席の温まるの暇なきに、其の進出鬼没の身は朝に青龍刀を振つて皇軍の背後を守り、時一度祖國の急を告ぐるや、忽ち劍を捨て國民の前に愛國を絶叫す、斯くして、支那四百餘州を流浪したる、彼れの頭髮は霜を頂くと雖も、其の意氣たるや、今尚ほ壯者を凌ぐ、而して今や其餘生を亞細亞民族大同團結、日支親善、滿蒙開發の先驅者として立たんとするので吾人は盟友逸見十朗氏の行動を援助する事は即ち現下非常時局に直面して此の友を推す事を當然なる事と思ふ!!!

昭和十四年三月十日

陸軍記念日

盟

友



### 讀者のみなさまへ

最近支那、滿洲の問題が講演に又は新聞に雑誌。口に上り又は筆に書かれ一方映畫に芝居に迄盛に成つて來た事は誠に欣ぶべき現象で國家の爲め御同慶にたへぬのであります。

併し論ずる人、書く人々の多くは支那又は滿洲國の實情に暗く甚だ見當違の暴論を吐いて平然たるに至つては、深く深く悲しまざるを得ない、學者や政治家は恰も我が事の様支那問題や滿蒙開發論を提唱して居る、青年諸士や質實なる人士にて何等實際的の知識を有せぬ多くの人々は論者筆者の肩書に感服して凡てを鵜呑みにしてしまふ、外國の新聞雜誌通信記者は之れを翻譯して本國に送る、かくして支那問題、滿洲問題は世界的に誤り傳へられるのである。

一度も玄海の波濤を越えた事もなく、朝鮮の田舎をば邑から邑へと旅したこともなく又滿洲支那大陸の荒原に、黄土より出て黄土に没す黄色な太陽を拜んだ事のない連中は支那大陸問題を口にする丈の資格を有せぬ筈である、所謂支那通なりと自稱する人々の言論も又頗る怪しいものではなからうか、ある同郷の先輩が一日私に向つて曰く。

「内地からの支那、滿洲、朝鮮視察者なるを見よ、釜山に上陸するや、鐵路京城、安東、奉天、新京、ハルビン又は奉天より天津、北京、濟南、青島を瞥見し、一流の旅館に寢食して、官廳やその他の大會社、銀行位を訪問して統計書やパンフレットを集め廻り會社、銀行の自家廣告をトランクに收めて御苦勞様にも其れを赤帽より赤帽へと次々と御旅行の御供をする有様である故に宴會の席上での雑談等が彼等の所謂生きた材料となり、論文や講演の内容となるんだから實に危険千萬此の上もない大問題です」氣車の窓や船著



場の立話で如何に御先方様が高級な御官吏様でも果して何れ丈けの真相を傳へ得るや……。

余は大陸生活實に二十餘年支那、滿洲、朝鮮、露蒙國境に邑より面に面より府に路より路に街より街へと鐵路の旅行に非らずして馬の背に又は馬車に牛に徒歩に四百餘州十三道を訪ね、其の間武人と語り憂國の志士や學識深き人々を尋ね名僧高僧に教へを受け、支那政府大官の對日政策を觀、在支大和民族の眞の姿を見た、而して得たる結論が本講演である、拙なき講演に頼り支那大陸を知らんとする人々の御參考になり、眠れる人々への警鐘ともならば私の幸甚此の上もなき名譽とする次第なり。

三月十日 陸軍記念日

逸見十朗

謹言

皇師暨軍為里之寄託

稿

將寺の善義を感謝す

永官の吉

永官の吉



# 祝 戰 勝

大日本北九州若松市

岡 部 宏 輔

昭和十四年三月十日  
陸軍記念日

## ●事變下の陸軍記念日を迎へて

帝國在郷軍人會々長

陸軍大將 井 上 幾 太 郎

戦時體制の事變下に、今第三十四回陸軍記念日を迎へ、轉た感無量のものがある  
當時我が國民上下一致、克く國難に當り、民心一和、出で、は將兵の勇武となり  
入つては銃後の支援となり、以て赫々たる戦捷の成果を得たる輝かしき歴史を追憶  
し、想を現時の情勢に馳せ、皇軍の任務に寄與すべき吾等會員の其の責務愈々重且  
つ大なるを痛感する。言ふ迄もなく事變は第二の段階に移り、舉國一致長期持久の  
決意の下に堂々其の歩武を進めつゝある今日出で、應召軍旅に従ふものも、内に銃  
後の任にあるものも、曩に陸軍大臣の訓諭せられし旨を體し、苟且あつてはならぬ。  
惟ふに皇國がその有つ所の使命達成に向つて邁往しつゝある今日の大偉業は、是  
日露戦役の延長なりとも目すべく、今此の光輝ある試練の塙中に立ち、未曾有の此



の國難を打開し、東洋平和の礎石を固めてこそ。拂ひ來つた日露戦役の大犠牲に酬ゆるを得る次第である。時世の推移は當時に比し今日更に複雑多岐なるものがある。切に諸君の奮勵努力を望んで已まぬ。

以上

戦友轉

昭和十四年三月十日 陸軍記念日

感謝

皇軍之勇戦  
赫口之戦果

勤皇建業出陣是  
布衣有日 義長

奉還



# 支那事變に就いて

逸見十朗氏講演

場所 福岡市東公園千代小學校講堂  
 福岡市帝國在郷軍人聯合分會  
 主催 昭和十四年二月十一日(紀元節)

今日紀元の佳節に勇壯なる諸君の御集合を得て總會を開會致しました、引續き講演に移ります、諸君今日の國家非常時局に當り、我々在郷軍人は支那を知る事は最も大切な事で又最も難し事である。生半可なる議論の横行に依り吾々は此れまで。どれだけ迷惑をした人があるか知れないと思ふのであります。嗚呼遂に。支那とは何んぞや。これこそ吾等日本人に課せられたる最も舊くして常に最も新らしき命題である。時局の脚光を浴びて華かに登場したる逸見氏こそ往年一世を風靡した快男兒長

漢郷其の人である。吾人の待望久しかりしが、今回支那より歸國當地に立寄りしを幸ひ本日の講演を御依頼せし處即時御承諾を得て只今其の勇姿を迎へ其の熱辯を聴かんとすのであります何卒御静聽の程願います。

會長和田少將閣下始め郷軍首腦部の多數參列向野砲兵中佐殿の紹介で、逸見十朗氏壇上に現はれ——私が逸見で御座います。講演開始、午後二時三十分

今日は紀元節に當り聖戰第三年の春を迎へ、而かも皇軍將兵は大陸作戰に於ては全面的の大成功を収めたる事は皇國の爲め誠に御同慶に存じます、本日は先輩の御紹介で不肖の支那觀を講演して銃後を守る、在郷將兵の爲め淺學菲才をかへりみず之れより講演にと致します。

## 緒論

近頃支那の事は事變以來特に支那問題に就きまして、かんがへさして頂く事は日本人が一日も早く支那を充分知る事でありましょ、即ち支那再認識時代とでも申



しましよ、先づ順序として支那の經濟がどうなつて居るか、と云ふ事です、支那の財力は其の根元はどこに在るかを探索せねばなりません、而して支那歴史、思想、文化、産業、藝術、教育等を細かに観なければ、日本人が戦後支那を指導、啓發すると云ふ事は不可能と存じます。

先づ本日第一は支那とユダヤ財閥の關係を話しまして、次に清朝崩壞の前後より蔣介石獨專政治の店開を始ました所を話して皇軍が至る所に敵の民衆を愛撫し倫理をほどこし、更に恐るべき共產黨の惡魔をこらしめた事どもを御話致したいと存じます。但し時間都合で全部は如何と思ひます。

### ユダヤ人と支那財閥

ユダヤ人が支那にどれ位金を出して居るかは適額には判りませんが兎に角英國、佛國の三國とも相當な力を蔣介石にそゝいで居る事は事實です。

先づ全世界に「ユダヤ人」はどれ位居るかと思ひます。

ふ。但しユダヤ人五六千萬人居るがユダヤ人でユダヤ教を信奉せず、他宗例へば、キリスト教、佛敎、回教、その他を奉ずる人々はユダヤ人と認めず只「ユダヤ」教を信奉する「ユダヤ人」を私はユダヤ人と申して其の數一千六百萬位と申します。ユダヤ人の最も澤山居る國はポーランドの三百二十萬人位を初めとして歐洲には約九百七十八萬人位居ります、ソ聯の二百七十萬人や羅馬の百萬人は最も多き所である、更に南北兩米洲に於ける五百萬人位其の最も多數は米國の四百五十萬人を第一として居る。

次に亞細亞に於ける九十萬人位内最も多數は「パレスタイン」四十萬人位で次が「ソ聯領アジア」六十四萬人位で支那には一萬三千人位である、日本には二千人弱であると思ふ、其の外「アフリカ」にも相當散在して居る、此處に不思議なのは「ユダヤ人」は田舎に居住せず多くは都會に住居して、其の勢力の大なる事は實に驚く可き者である、米國に居るユダヤ人四百五十萬人の内紐育に住む者實に三分の一の百五十萬人と云ふ驚く可き多數である、更にユダヤ人の財力を觀ますれば此



れ又實に驚くべきもので全世界の人類二十億に近い人間仲間に僅かに一千六百萬人のユダヤ人其の外準ユダヤ人合せて五六千萬人位のユダヤ人に全人類、然かも立派に民族的に強大なる國家を有する英、米、獨、佛、伊以下諸國が自由に財的方面で奔弄されて居るかと思ふと實に馬鹿々々しくしてお話に成らぬ、そこでユダヤ人がそれではどれ位金を持つて居るかと思ふと、全世界の富の約六割八分位が正しき所ではないかと思ふ、其の流れが支那に侵入して居る事は申す迄もない事である。それならばユダヤ人で知名の士はだれかと申しますれば先づ英國の現大藏大臣サイモン卿は立派なユダヤ人である前大藏大臣も亦さうである、上海財界の巨頭サツシオン（英國系ユダヤ人）又支那幣制改革の大立物リロスロース等も有力なるユダヤ人である、滿洲事變に日本や滿洲をウロツいた國際聯盟の小使役をした英國のリットン卿と云ふ男もユダヤ人である、日支事變以來抗日の巨頭支那蔣介石を援助しつゝ在るはユダヤ財閥で上海第一の富豪にエブラ、ザツスーン、ハードンカドゥリ等は其の最有力なるユダヤ人である、ついでながらユダヤ人の富で邦價にして約六百億圓

位を有するユダヤ人が米國あたりには居る、さうすると佛國の富が九百七億圓位とすると、一ユダヤ人が佛國の半分以上の富を有して居る事に成る、英國の富が千五百五十億圓とすれば其の三分の一強である、以上の如き強大なる富を有するユダヤ人は英、米、佛の三國を通じて支那にあらゆる投資をし又利権を有する事は吾人の想像以上である故、一介の武弁蔣介石の背後にはユダヤ財閥の暗闘活躍の在る事を知らねばならぬ、故に皇軍將士の全面的成功に對して戦後の經營こそ日本人に課せられたる天の試練でなければならぬ、それには支那民族の動靜を知らねばならぬ、次に支那の二三十年間の歴史を簡単に語りましょう。

### 清朝滅亡後

大清國皇帝に君臨せる宣統皇帝三歳にして即位せられました、時に幼帝なるが故に其の父醇親王攝政となり、軍機大臣袁世凱をして時局に當らしめ、南方革命の巨頭孫逸仙と交渉なしたるも、遂に清朝は袁世凱の勸告により民意を入れて共和政



體を認め、宣統皇帝の尊號と年金四百萬元を得て退位になされて、此處に清朝は實に二百六十八年にして滅亡致しました。かくして孫文は臨時大總統を辭し、袁世凱をして、中華民國假大總統に就任せしめ翌年第一回國會を開き正式第一期中大總統に就任致しまして、副大總統に黎元洪が任に就きました、さうして列國に支那共和國たる事を承認せしめたのであります、處が袁世凱が自ら天帝に成らん大野望が發覺致しまして、同時に、討逆の急先鋒として民國三年十二月下旬には陳基美の上海機器局占領となりて現はれました、是れ第三革命の烽火にして、續いて雲南省、貴州省、四川省等に蹶起せる蔡鍔大將、唐繼堯の徒の如き討袁軍の旗幟所在翻翻たる有様である所が袁も亦さる者素より其の擁せる所の魏貅山の如にして、彼より觀れば乳臭き南方青年武將の抗爭の如き固より意に介する如きものに非らず、獨り袁の帝業に對す列強の外交、殊に時の日本帝國政府は決然として起ち、動もすれば輒ち支那を魅せんとする獨逸の勢力を絶滅せんか協商國側に立てる列國の牛耳を執りて毅然之に抗するに及んで、其の帝業遂に中道にして破れたのである、其の後袁倒れ次

に黎元洪副大總統より大總統に就任次に舊官僚系より徐世昌大總統に成るもいくばくもなく曹錕の時代と成る曹錕元より彼れの背後に上將吳佩孚の居る事を忘れては成らん此の時に吳佩孚と曹錕とは不和になり始めた、それは吳佩孚は大總統に黎元洪を再び推選した、曹錕元より大總統の希望有れど其の器に非らずと云ふ其れより以後は吳佩孚は段祺瑞派に屬した形ちと成つた、最近の支那の臨時政府又は維新政府の首腦の人々の顔を觀るに大分部は段祺瑞派と舊曹錕派の人々である、段派（元より親日派）武人には吳光新、傅良佐、張樹元、張敬堯、段芝貴、盧永祥、何豐林馬良、藏致平、揚化昭等はいづれも將官級の逸材である、更に政治家方面では王揖唐、丁士源、曹汝霖、陸宗輿、朱深、李思浩、姚震、王印川、梁鴻志等は一流の政治家であります。中にも梁鴻志あたりは總理級の人物です、又曹錕派を觀れば又多志濟々たるものであります、武人派では大將級元帥級には先づ第一に吳佩孚將軍靳雲鶚、張福來、齊燮元、陸錦、熊炳琦、李濟臣、張錫元、潘知斌、彭壽華、革政國、揚清臣、趙王珂、更に吳佩孚幕下の猛將には、高思洪、勞之當、孫丹林、張漢



郷（日人）等の將軍連在り又政治家方面には最近日本人に非常に良く知られたる王克敏を始として高凌霨、王敏芝、張英華、吳敏麟、邊守靖、曹銳等で此れ等曹錕派を支那では直隸派とも云ふ其れは段祺瑞派を安徽派又は安福派とも云ふに同じ意味である故に只今の蔣介石に屬する連中を南方民黨派又は孫文派とも云ふが現今の南方派には元奉天派即ち張學良の父作霖の殘黨が加はり更に中心不定の軍閥馮玉祥や山西の巨人閻錫山一派廣西の陸榮廷一派廣東の陳家の一門雲南派位を蔣介石派と觀ればよからう。

以上の如き黨派に別れて常に争鬭を續けて居りしが此處に蔣介石の天下と成るや極度に

### 蔣天下を握る

ユダヤ財閥と握手して經濟的に充分なる準備をなし外國製の優秀なる武器を購入して彼れは日本軍と一戦交へても五分五分の戦争をするには充分と誤信して駒を進

めた所が愈々戦争と成れば五分五分どころか九分と一分の戦も出來ず、シドロモドロの有様である何故かと靜かに觀れば今日の戦争は化學と精神の戦争である、彼れ蔣介石が不統一極はまる優秀の兵器武器を集めても、其れを持つ兵士が人間のクズを集めて、魂なき人形に銃を持たせて光輝ある日本帝國を相手に戦争をなさんとするは無暴と云ふより外に申し様がない、もつとも、蔣介石は日本式に歳を數うれば明治廿年生の五黄の猪歳で向う見ずと云ふやつであるから之れ位の事はありさうな事ですが支那民衆こそ實に御氣の毒千萬であります、蔣介石が戦死をするか又は國外に逃走かいづれ近き内に彼れの運命も決するわけですが支那國民とは我々が斬つても斬れぬ間柄なれば我々は益々支那を知る事が必要なる事で、政治家、教育家、事業家、あらゆる職業の方々知らねばならぬ事は、本日御集りの諸君は一度國家に事有る時は劍を以ち軍營にはせ參じなければならぬが又平和の時は國民の前衛と成り忠良なる民として範を國民に示さなければならぬ諸君に於てをや一層支那研究に努力せねばなりません、我が將兵は今や支那大陸に於て敵の民衆を救ひ、食



わかち、衣をあたへ、右手に劍を持ち左手に敵を愛撫しつゝ、日夜聖戦の目的遂行に努力せられ居ります。

更に支那道徳方面を觀ますれば此れは又日本人の想像の附かぬ程好い所があります、我々は國家の爲めと申せば妻子を捨てゝも君の馬前に倒れる事を無上の名譽と心得て居りますが、支那民族は個人の交際は誠に親密であります、事一度國家的の問題と成れば實に非人格的の行動が多いのであります、そこが日本人と支那人の違ふ所で御座います、我々は皇室中心主義であるに對して彼れら支那人は家族主義である故に家族道徳は可成り立派なる點が多く觀受られます、實業家の商取引の如きは實に立派なるものであります、故に支那人は我々日本人と將來仲良く交際の出来る事は確信致して居ります、故に現在の支那を立直して堅實なる中央政府が出来、日、支、兩國民が相提携して行けば東洋の平和は期して成功疑なく、實現致す事と確信致します。

更に支那人の海外に發展致し居る事は實に猛烈なるもので蔣介石の最も力強く思はうて居るのは海外に居る華僑であります、華僑とはなんぞや。

### ◎抗日支那の原動力は何に？

日支事變以來新聞に雑誌に華僑と云ふ字を良く見るであらう、其の華僑とは一たいどんなものか申す迄もなく支那人で海外に居る支那商人である、さうして海外に多く居る華僑は廣東人が非常に多く、次には福建人が又相當に出て居る、廣東人は大部分が米大陸に福建人は南洋へと志して居り、其の數約一千万人位で日本にも事變前には約四十萬人位來て居つた、日本軍が、バイアス灣に上陸したる事は蔣介石よりも驚いたのは海外に居る華僑其のものであつた。

何故に、華僑が、皇軍の廣東占領に驚いたかと云へば廣東省こそ實に彼等の根據地であり又原籍地であれば蔣介石よりも彼れ等に取り利害の上からも當然の事である。

華僑を説かんとするには支那人中でも廣東人の精神より説かなければならんが其



れは略して本日は簡単に御話し申さう。

其の舊、對英ボイコットの際は、五十萬ドルの資金を供給して、政府を援けた。其の彼れ等が今回も日支事變には國民政府に約四五千萬ドルの國防献金をして抗日戦の有力なる賄方を御奉公して居る様子である、昨年末の蔣介石政権債務委員會の發表する所に依れば、支那事變以來華僑より支那軍資金として釀金は約一億元の上に乗るとの事である、日本としては、かゝる抗日の原動力たる彼等の勢力並に、海外に居て抗日運動を指導するものは、廣義解釋に依れば、日本に敵對するものを認めるので、彼等、抗日運動家の財産を敵産として之れを沒收する事に決したのであるから、今後の彼等の運動は蔣政権の消長と共に相當な注目をすべきである、然し、局面は一轉したのだ、其れは皇軍の、武漢三鎮の攻略なり、又彼れ等の原籍地たる廣東、福建、あたりが最早や手も足も出なくなりし爲めである。

そこで彼れ等も皇軍の行動を觀て日本の聖戰の目的が良く判り始めた、云ひ變れば事變の眞意を正しく認識しはじめた者も相當に多くなり、其の現はれとして日本に居る華僑あたりも新政府支持にかたむき始めたので、最も肝腎なる廣東に對する彼れ等の態度はどうであるかと云ふと、そこが支那人である、まだ、まだ、油斷はできぬ、異民族の支配下に屈せぬ、然かも自己の利益を死守せんとする、所謂「廣東精神」の戰術、頑固たる對策により一般華僑連中にケンかけて居る、香港の抗日諸機關の暗躍、更に華僑を郷里に歸らせぬ様にしたり、又爲めにする蔣政権の逆宣傳。これらが華僑の廣東復歸、云ひ換れば廣東の復興を鈍らせて居るのである、一面彼等の所謂「華僑」根性も仲々深く根ざし、未だ抗日の虜となつてゐる者がその大部分である。

「鐵格子の市民性」とも云ふべき彼等の、自己防策よりは、彼等の抜き難き、華僑根性の塊である。

鐵の扉に、窓には猛獸の檻の如き鐵格子、天窓から通風窓は勿論、井戸の蓋、下水の蓋に至るまで鐵格子の彼等。警察に頼り切れぬ、ユダヤ人的な彼等の市民性實に救ひ難き民族性である。



皇軍が廣東政略の時も廣東の中堅をなす、紳商、名士は、何れも、此の鐵格子に留守宅を護らして香港方面に逃避して行つたのである。

さうして、その眞意は、果して、東亞の新事態に正しき認識を得たか、どうかは別として今や彼等は日本の誘ひの手を待つてゐるのである。

孫逸仙、胡漢民、唐紹儀、孫科、宋子文、王寵惠、余漢謀、吳鐵城、蔣介石夫人等抗日支那の中樞人物を輩出した廣東省と華僑の本場廣東省とは實に云ひ知れぬ因縁があるので先づ新支那建設に寄與せんには、華僑の動靜を知り而して彼れ等「廣東精神」を知る事も必要と思ふ、聖戰の眞意を彼れ等に充分納得せしめ、我が出師の大目的の爲めに一層の努力が必要である。

以上の如く單に支那事變と申しても仲々複雑極まる支那民族の生活様式は一朝に改めると云ふ事は困難である故に徐々として其の民族固有の精神を先づ王道精神に導き彼れ等を眞に幸福に導びく事は日本人の天より課せられたる天業と申さねばなりません故層一層の御努力が必要と思ひます。

甚だ前後致したる御話を申上失禮を致しました。あまり長時間に亘ります故いつれ又次回に御面接の時に又講演を致します。終り 午後三時十五分

元支那大元師張作霖軍事顧問

前第三師團長陸軍中將

楠山又助閣下

逸見氏の講演は實に面白く且つ感激に満ちた場面もあり辛辣骨を刺す様な處があるかと思へば痛快血湧き肉躍る劍劇的光景もある識らず知らずの間に、皇室中心左傾思想病の救済を爲さんとする精神に至つては實に敬服に堪へぬ、其の眞劍と熱に充ちた雄辯は確かに現代言論界には群をぬいて居る、奉天在郷軍人の人々ばかりでなく一般青年にも是非聴かせたいと思ふ。

「奉天府公會堂の逸見氏講演を聴きし楠山中將閣下の感想を奉天新聞が掲載したる批評である。」



## 日本建國之大精神に就いて

逸見十朗氏講演

場所 滿洲國奉天府公會堂  
主催 奉天帝國在郷軍人會

謙讓なる逸見十朗氏は奉天帝國在郷軍人會長木下陸軍大佐殿の紹介に依り壇上に立つたが、一旦階下に降り、私が逸見で御座います、今夕當地有力者の方々の御世話で私の思想及理想の一端を講演致す事は私の満足する所で御座います。「逸見氏再び壇上に昇り愈々氏一流の大獅子吼す、時に、午後七時四十五分」

歐洲大戦亂を一區劃として、全世界は混亂變化した武力戦より思想戦に移り變つて來たのである、歐洲戦の結果を見るに獨逸は武力戦に於ては常に勝利を續けたるに拘らず、英國及佛國、其の他聯合軍側の得意とする思想戦に負けたのである、

當時英國は獨逸國民の思想を攪亂する目的にて特に「プロバカンタ」專任の大臣を置いて全智全腦を絞つて、宣傳戦に大奮闘をした、英國の宣傳戦の内容を一言してみれば、こうである「聯合軍は獨逸の國民を決して憎まない愛して居る、只好戰皇帝カイゼルを倒せばよいのだ、カイゼル一人のために貴國民は苦しんで居るを氣の毒に思ふ、カイゼルさへ、倒れて戦争中止となれば、どんなに貴國民に良い條件で講和條約を結ぶ決心である」と云ふ様な意味な宣傳ピラを盛んに飛行機で獨逸軍及獨逸國民の頭上に絶えず無數に撒布致したので、獨逸軍も國民も之れに引懸り、カイゼル皇帝さへ追出せば吾等は幸福に成れると云ふ氣になり、遂に獨逸の元帥ヒンデンブルグ氏は武力戦には充分に勝つて居る獨逸軍も聯合軍の飛行機より撒布される毒雨の落下には如何とも防ぎ様はなかつた、と嗟歎した。

## ◎歐洲戦後の思想更に悪化する

以上の如く帝國主義の代表と目されて居つた、獨逸は亡びてより之れに代つて勢



力を伸ばしたのが、民主主義又は民本主義之れに類した主義である。  
露帝國倒れ、ソヴェット政府現れ次いで起つたのは民族自決の叫びであつた、其の御蔭でチエツクスロバキア等の如き弱少國家が現れた然しこれ等の國は二、三十年も立てば又解體すると思ふ、更に民族獨立を叫びだす小民族もあり又支那は支那民族で支那の事は支那がすると主張し出す有様で益々複雑に成りました。

### ◎神意君意に就いて

西洋人は君意と民意との關係をどう見て居るか、君意は親しむべきか喧嘩をすべきかそれが解らないのである。

人間一人は獅虎一匹にも勝つ事はできぬが、然し一面には共同して之等に打勝つてゐるのである、故に人間以外には共同動作が出来ない、人と云ふ字は二人合して出来てゐる、一人倒れば一人では立てない、飽迄人類は共同生活をして行かねば幸福を得る事は出来ない、治國には神意、君意、民意の三つがある事を忘れてはな

らぬ。

神意とは總べてである。

君意は君一人の意に依りて治する、然し君御一人が人民全體の幸福を本とされるならば誠によいが、昔佛國のルイ十六世の如く獵に出掛けられるに畑の作物に肥料が施してあつては臭いからとて肥料を禁じたり、又獵をされるのに簞がなければ鳥の棲家が無くなると云うて簞の伐採を禁じたりした、是れ即ち上御一人の君意を元とした爲め遂に革命が起り、ルイ十六世帝王は亡びました。

民意は云ふ迄もなく、民意即ち、民意を元とするので、民さへ良ければ何でも成ると云ふのである、神意も民意も之れを實際に行ふ者に依つて民意を傷ける西洋の君意なるものが君一人の幸福の爲めに計る事が多い西洋の君臣なる者は喧嘩をする者の様に思はれるのである、要は神意でも、君意でも、民意でも上下一致上は下を思ひ下は上を思つて互に思ひ思はれ親切にし又されてこそ、其の國は治まり人民は幸福となり文化によくし得るのである、然るに西洋の君臣は、君は君自己の爲め



を思ひ、臣は又臣自己の爲めを思ひ居り他を思はないと云ふ有様で實に墮落したものである、又斯の如き状態では墮落せざるを得ない。

### ◎日本建國の大精神

茲に日本建國の大精神に就いて述べたい、大君は民の心を知り民は大君の心を知るべきである、敢て日本の建國に就いて説明すべきではないが特に御許を願つて一言する。

皇帝と申すべき語は日本語では無い、天津日嗣が日本の皇帝の語である、我天津日嗣は天に輝く日輪を嗣ぐのである、山川草木禽獸蟲魚總べての物は其の光を仰ぐのである、天津日嗣山神である、宇宙の森羅萬象皆神の光を受け萬事生々として化育するのである、日本天皇は天の心を、天の道を、地に行ふ、即ち人類總べてに、山川草木禽獸蟲魚の上に行ふのである、日本建國の大精神日本天皇の大御心は日本人民計りを愛すると云ふ様なる小さいものではなく、日光の光輝く全世界の總べ

ての事物を照したまふが如く世界人類總べての人類を愛するのである、日本天皇は紙の表であり人民は其の裏である、一枚の紙の如く實に離るべからざる關係にある我君臣は常に合體一致し宇宙の大道を進むのである、之實に我日本建國の大精神であり我君臣の心である。

### ◎明治天皇陛下は九千萬人を我子とす

明治天皇陛下は人民を全く我子同様に愛撫されて居られた事に就いて、次の如き畏い事實がある。

大帝陛下は多くの内親王様がおはしました、或時に内親王様の御一人の御方が佐々木侯爵に對し御父陛下が我等に對し曾て優しき御言葉も掛け給はぬと申された、佐々木侯爵は死を決して陛下に御諫言申し上げた、處が陛下は朕には九千萬人の子供があるぞと仰せられた、其の意味は我等九千萬の人民は皆我子である、これ等の子供を平等に愛撫するのである、我子だとして特に愛する事は出来ぬと云ふ大御心であ



らせられた。

佐々木侯爵は恐惶して退出したと云ふ話を私は某大官より直接うけたまはつた。惟ふに、我天皇陛下の大御心が外國の皇帝の如く自己を中心とする君意を以て國を支配する俗人的の治國法と異り人民を愛撫する事恰も皇子皇女に對すると御同様何等の差別も遊ばされないのである、外國にも一代や二代位の賢君も出るが、我朝の如く皇統連綿三千年歴世の天皇の皆相繼ぎ相承けて人民を我子同様に愛撫されたと云ふ歴史は外國には一つも無いのである。

此の頃の學者連中はモルモットに五年も十年も掛かつて注射をして、何かの病源を發見してさも宇宙の大原理でも發見したが如く發表して居るが、我朝に於て天皇が右の如く我が子の如く民を愛撫された事は偽はり無き哲理である、要するに我國は君臣父子夫婦皆互に思ひ思はるゝ美しき情愛を以つて治て來たのである。

### ◎マルクス主義を排す

マルクス派の西洋の唯物主義には君は臣を思ひ臣は又君を思ひ、親は子を思ひ子は親を思ふと云ふ情愛がない、私はマルクス派の學者に對しマルクス主義には宇宙と云ふ事が説いてない、宇宙の大自然を受入れて之れを人類に施すのでなければならぬ、西洋には君は臣を愛せず資本家は労働者の主張を容れない、夫れが爲めにマルクス式の主義が此れに對立する事となつたのである、思ひ思はるゝ情愛あれば左様なものは必要を認めないのである。

### ◎日本は民本主義也

立憲君主國と名づけたが夫れは國體を言ひ表はす文字に過ぎない、實際問題になれば諸君も御承知の如くに日本歴世の、天皇は人民の意向を察知され人民の幸福の爲めに政治をみそなはされてゐるから、學者の名が何んでもあらうとも日本の國體を天皇御自身で御覽に成る時は民主國である何事にも御無理を申せられず、人民の幸福の爲めに政治を齎せられる、天皇の御命令に悦服する人民より觀れば君主國であ



る、然し夫れは一枚の紙の如く表は君主國で其の裏は民主國である、外國の君主國又は民主國とは全然其の政體を異にするのである。

### ◎支那に王道文章あるも實なし

支那は文明國である支那は又文章の國とも申される、支那には「天子は天の心を以て人民を治める」と云ふ様な實に美事な金玉の文章があるが、支那歴代の帝王なる者は悲しい哉之れを實行した御仁がない。然るに日本には文章と云ふものがなかつたが、實際に歴代の天皇が王道學を其の儘に善政を御實行遊ばされて居られたにも拘らず之れを表はす文章を作る事が出来なかつた、支那から始めて文字と云ふものが傳はり王道學と云ふものを讀んだ處が偶然にも日本が實行してゐる王道政治と全然一致してゐるので日本王道政治を表現する文章として調法がたつたのである。

### ◎日本の王道政治は大成功

右の如く支那には王道政治の文章は金玉の文字を以て列ねてあるが實行した者なく、日本は文章なきも口碑によつて王道政治は相繼ぎ相承けて二千五百數十年間實行して來た。即ち日本の王道政治は最早や試験濟で世界に誇る金甌無缺の王道政治である、支那は王道學を立派な文章に作つたがまた試験をしてをらず又試験をする人がをらぬ國である。

### ◎西洋思想衰へて王道思想が榮えん

マルクス式の唯物主義個人主義は人はどうでも良い自己の幸福の爲めに働くと言ふ様な情味のない西洋思想衰へて來た事は西洋人自ら之れを認めてゐる、今や世界の思想は混沌として居る、西洋思想の行詰つたのである、東洋の思想の代表的なる王道思想が將來の世界を征服するであらう、其の證據には西洋より東洋思想の研究に來るものが昨今非常に殖えた事でも分る、或西洋學者が「光は東方より來たる」と叫んだのも決して偶然ではない、又或西洋學者は「東亞兩洋の文明は太平洋と隔



つて相對峙してゐる、一方の光が勝てば一方が負ける』と云つて問題を起した事實がある。

### ◎思想には思想を以て對立せよ

赤化思想の我國に侵入する事は勿論よくない、之れを防止するのに武力又は警察力も必要であるが、其の悪思想を喰ひ止めるには矢張り思想でなくてはならん、君の國の思想より我國の王道思想の方が人類の爲めに幸福ではないかと云うて、相手の誤りを覺醒せしめ王道思想を普及せしめなければならぬ、否左様する事が人類を幸福に導くに最も忠實なる方法であると信ず。

### ◎滿蒙問題の根本義

正しからざる思想を指導して行くには正しき思想を以つてしなければならぬ、殊に現代の支那の誤れる思想を善導するには世界無比の金甌無缺の我王道思想を以て

せねばならぬ、幸ひに前に述べた如く支那には誠に善き、王道が出来てゐるから之れを復活せしめればよいのである、我國でも外來の悪思想の防禦計りに心を用ひず此の立派なる我國特有の王道主義思想普及の實行に懸る必要がある。

證文が何んだ、履行しなければ何の役にも立たぬ、丁度今日の日支條約の如きものである、何事も精神的に思ひ思はるゝで、行かなければならぬ、我國の執るべき滿蒙問題の根本義即ち根本的解決はどうしても、支那を王道思想に立還らしめる事が先決問題であると私は深く信ずる者である。

### ◎王道思想で全世界に大革命を起さん

私は王道思想に依り獨り滿蒙、支那問題の解決を計るばかりで無く、此の思想を以つて全世界を風靡しなければならぬと信ず、行へば必ず目的を達し得ると思ふ、見よ、赤露の努力を、其の思想は良くない誤つて居るが、其の思想を全世界に普及しようとしてゐるのではないか、我々も我が王道主義思想を赤露の如く熱心に



及普せば、必ずや王道思想は世界を風靡する事が出来る、此の安全穩健なる王道思想家が此の世の中に一人でも多くなる事が、此の世の中に危険が尠なくなるのである。又之れが人類愛の大精神を發揮し世界人類を幸福に導く第一である、更に此の王道思想を世界何れに持出してでも決して耻しくない立派なる美しい事である、人類愛の王道思想の鼓吹にあるのである、如何にして、實行するかに就て私には思ふに此の王道學を實行するには先づお互が生れ變る事である、癖のない純なる子供心に立歸り支那をも昔の王道に生れ變らせるのである、さうして支那をして日本に領土的野心あると云ふ様な疑を一掃せしむる様に日本が進んで其の範を示さねばならぬ、武力で領土を取るは夫れは古い古い思想だ、領土よりは經濟的發展を爲せばよいと云ふが現代の思想である、夫れには支那と云ふ相手をして何等の野心をも抱藏し居らぬ日本の大精神を充分諒解させて互に語り談じて腹の中を割つて見せ、兄弟にならねばならぬ位に迄行かねばならぬ、又お互に何を云うても腹が立たなくなる處迄行かねば、王道思想を滿蒙の天地に普及せしめて滿蒙を救ふ事は出来ぬのであ

る、證文は一葉の紙片である。

ソヴェット社會主義露國の如く愚民を煽動したり、野心の爲め動く南方支那政治家の思想は支那の爲め良くない個人主義を捨て、お互に仲良くしよう。お互に思ひ思はれ手を握り合つて生存しよう幸福にしようと言ふ正義の思想に對し誰が之れを阻みましよう、何人が此の思想を妨害しましよう、故に我々日本人にして海外に在る者は總動員總掛りで支那人一人残らず四億の民に日本建國の大精神を植ゑつけ支那民族に王道に復歸せしめ進んでは世界の全人類に王道思想を植ゑ付けるこそ、實に人類を救ふ一大思想運動であり、又日支親善實現への近道であると思ふ。

以上の如く多技多様に亘りまして甚だ御聽さにくき事と存じますが、要は日支親善も其の根本思想より改善せねば實際の親善は仲々困難であります、國防の第一線に於て御活動の皆様は國家の前衛と成り一層の御奮闘を願はねばなりません、何卒一人の支那人に對しても王道思想の尊さを語たり、彼れ等をして一日も支那本來の王道に復歸せしむる様御宣傳を願します。私の今回の講演に對し奉天府在郷軍人



會長木下大佐殿始め會員御一同の御骨折りに對し謹しんで御禮申上ます。

時に午後十一時三十分。聽衆約一千八百餘人

講演日誌

昭和十四年二月六日 福岡市九州劇場

二月八日 福岡市福岡警察署内警察官

二月十一日(紀元節) 福岡市在軍人總會

二月十九日 鹿兒島市在郷軍人會、愛國婦人會、國防婦人會、青年團

二月二十五日 福岡市青年團、青年學生

三月二十三日 晝 福岡縣下三菱新入炭坑協和會館

夜 右 同 職員クラブ

◎先づ支那語を研究して

それから支那問題に進みませう

支那語 支那は廣い、その面積は歐洲のそれに匹敵し、人口も同じ位である。今歐洲の獨立國を見るに、その數三十を越え、言語も多種多様である。支那に於てもこれと同じく言語は多數に分れてゐる。今大ざつぱに支那語を分けると、官話、吳語(上海語)、閩語(福建語)、粵語。(廣東語)とすることが出来る。官話は北支那、中部支那(上海、蘇州、浙江などを除く)及び西南支那即ち四川、貴州、雲南などに於て用ひられ、それを使用する人數は約三億と稱せられてゐる。滿洲國の言葉もこれに屬するが、その代表的方言は北京語である。吳語は江蘇省の東南部、即ち上海、蘇州など、及び浙江省などで使用せられ、それを使用する人數は約五千萬と數へられてゐる、上海語はその代表的方言である。閩語は福建省、海南島、南洋などに於て用ひられ、それを使用する人數は約三千



萬と言はれてゐる、その代表的な方言は厦門語である。

粵語は廣東省を中心にして使用されてゐる、それを使用する人数は約三千万と言はれその代表的方言は廣東語である。

近來、支那に於ては國語運動が盛に唱へられ、標準語たる北京語がかなり普及して來たが、各地に於ける方言の勢力は尙ほ依然として強く牢乎として拔くべからざるものである。

ここでは各地の代表的な方言の日用語の中から約百五十を選んで日本語と對照して置いた。尙ほ閩語は編輯の關係で割愛した。

簡易な問答

(日本語)

要るか

要る(要らない)

(北京語)

要嗎

要(不要)

(上海語)

要否

要(勿要)

(廣東語)

要唔要呀

要(唔要)

良いか

良(良くない)

あるか

ある(ない)

さうですか

さうです(はい)

さうでない(いいえ)

來るか

來(來ない)

行くか

行く(行かない)

出來るか

出來(出來ない)

好嗎

好(不好)

有嗎

有(沒有)

是是

是(不是)

不是

來嗎

來(不來)

去嗎

去(不去)

會嗎

會(不會)

好否

好(勿好)

有否

有(無沒)

是是

是(勿是)

勿是

來否

來(勿來)

去否

去(勿去)

會否

會(勿會)

好嗎

好(唔好)

有嗎

有(冇)

係係

係(唔係)

唔係

來嗎

來(唔來)

去嗎

去(唔去)

會嗎

會(唔會)



君は日本語が分るか  
 分る(分らない)  
 君は知つてゐるか  
 家にゐるか  
 家にゐる(家にゐない)  
 まだあるか  
 まだ一つある  
 どれほどあるか  
 十五個ある  
 何斤あるか  
 七斤ある  
 何人か  
 十餘人

備(不)懂嗎  
 備知道嗎  
 在家嗎  
 在家(不在家)  
 還有嗎  
 還有一個  
 有多少  
 有十五個  
 有幾斤  
 有七斤  
 多少人  
 十幾個人

備(勿)懂  
 備曉得否  
 咧拉否  
 咧拉(勿咧拉)  
 還有否  
 還有一個  
 有幾化  
 有十五個  
 有幾斤  
 有七斤  
 幾化人  
 十幾個人

備識日本話嗎  
 識(唔)識  
 備知道嗎  
 係處嗎  
 唔係處  
 重右有呀  
 重有一個  
 有幾多  
 有十五個  
 有幾斤  
 有七斤  
 幾多人  
 十幾個人

これは何ですか  
 君は何をしてゐるか  
 どんな用事があるか  
 何も用事がない  
 どれがすきか  
 これがすきだ  
 何處へ行くか  
 物を買ひに行く  
 どうしたのか  
 病氣です  
 誰が来たか  
 林さんが来た  
 これは誰のですか

這是甚麼  
 備做甚麼  
 有甚麼事  
 沒甚麼事  
 愛那個  
 愛這個  
 上那兒去  
 買東西去  
 怎麼了  
 病了  
 誰來了  
 林先生來了  
 這是誰的

地個是甚物事  
 儂拉做甚  
 有甚事體  
 無甚事體  
 要阿里一個  
 要地個  
 到甚地方去  
 買物事去  
 那能者  
 病者  
 甚人來者  
 林先生來者  
 地個是甚人個

呢個係七嘢  
 備做七嘢  
 有七嘢事呀  
 有七嘢事  
 要邊個  
 要呢個  
 去邊處呀  
 去買呀  
 做七嘢呀  
 生病  
 邊個來呀  
 林先生來過  
 呢個係邊個嘅呀



私のです

これは北京話で何といふか

是我的

啊 這個北京話怎麼說

是我個

啊 這個上海話那能

係我嘅

呢個廣東話點

命令 および希望

(日本語)

来い  
早く来い  
行け  
早く行け  
持つて来い  
コーヒーを持つて来い  
日本の新聞を持つて来い

(北京語)

来  
快来  
去  
快去  
拿来  
拿珈琲来  
拿日本報来

(上海語)

来  
火速来  
去  
火速去  
拿来  
珈琲拿来  
東洋報拿来

(廣東語)

来  
快的来  
去  
快的去  
拈来  
拈珈琲来  
拈日本報来

これを持つて行け

門を開けよ

窓を閉めよ

着物を洗へ

部屋を掃除せよ

靴を磨け

酒を暖めよ

ちよつと待て

水を汲んで来い

お湯を沸して来い

勘定書を持つて来い

自動車を呼んで来い

私に下さい

這個拿去

把門開一開

把窗戶關一關

把衣裳洗一洗

把屋子掃一掃

把皮鞋擦一擦

把酒燙一燙

等一等

打水来

燒開水来

開賬来

雇汽車来

給我

地個拿去

門開一開

窗子關一關

衣裳汰一汰

房間裡掃一掃

皮鞋揩一揩

酒燙一燙

等一等

打水来

燒開水来

開賬来

喊汽車来

撥我

拈呢個去

開門啦

關窗門啦

洗衣裳啦

掃房間啦

刷鞋啦

暖酒啦

等一等

打水来啦

燒滾水来啦

開單来啦

叫汽車来啦

俾過我



君にやらう  
 貸して下さ  
 貸して上げよう  
 私に見せて下さい  
 もう一度言つて下さい  
 忘れてはいけない  
 騒ぐな(静かにせよ)  
 私はお湯に入りたい

給僱  
 借給我  
 借給僱  
 給我看看  
 再说一回  
 别忘了  
 别鬧  
 我要洗澡

撥僱  
 借撥我  
 借撥僱  
 撥我看看  
 再講一盪  
 勿要忘記  
 勿要吵  
 我要汰身體

俾過僱  
 借俾我  
 借俾僱  
 俾我睇啦  
 再講一盪啦  
 唔好忘記  
 唔好嘈  
 我想洗身

日常の挨拶

(日本語)

どうぞ  
 どうぞお掛け下さい

(北京語)

請請  
 請坐請坐

(上海語)

請請  
 請坐請坐

(廣東語)

請請  
 請坐

どうぞお茶をお上りな  
 さい

請喝茶吧

請用茶吧

請飲茶

どうぞ煙草をお上りな  
 さい

請吃煙吧

請吃煙吧

請食煙

ありがたう

謝謝

謝謝

多謝

どうぞ御遠慮なく

個別客氣

勿要客氣

唔好客氣

どうぞ致しまして

那兒的話吧

阿里阿里

笑話笑話

お先に失禮します

失陪失陪

失陪失陪

失陪失陪

お願い致します

拜托拜托

拜托拜托

拜托拜托

御馳走様でした

討擾討擾

叨擾叨擾

打擾打擾

御粗末様でした

簡慢簡慢

待慢待慢

待慢待慢

さよなら

再見再見

再會

再會再會

御免なさい

對不起

對勿住

對唔住

御元氣ですか

儂好啊

儂好啊

儂好啊







一斤いくらか  
一斤二十五錢です  
高過ぎる  
高くありません

多少錢一斤  
兩毛五一斤  
太貴  
不貴

一斤是幾錢  
一斤是兩角半  
忒貴  
勿貴

幾多錢一斤  
兩毫半一斤  
太貴  
唔貴

簡易な單語

(日本語)

一二三四五  
六七八九十  
十一、二十  
百、千、一萬  
一つ、二つ、三つ  
一圓、十錢、一錢

(北京語)

一二三四五  
六七八九十  
十一、二十  
一百、一千、一萬  
一個、兩個、三個  
一塊錢、一毛錢  
(二角)、一分

(上海語)

一二三四五  
六七八九十  
十一、廿(念)  
一百、一千、一萬  
一個、兩個、三個  
一塊洋錢、一隻角  
子、一分

(廣東語)

一二三四五  
六七八九十  
十一、二十  
一百、一千、一萬  
一個、兩個、三個  
一個銀錢、一毫子  
一個仙

銅貨、紙幣

日本

酒、ビール

買ふ、賣る

食べる、飲む

話す、聞く、見る、書く

腹が減つた、喉が乾いた

大きい、小さい

多い、少ない

長い、短い

遠い、近い

寒い、熱い

清潔な、きたない

銅子兒、鈔票

日本

酒、啤酒

買、賣

吃、喝

説、聽、看、寫

餓了、喝了

大、小

多、少

長、短

遠、近

冷、熱

乾淨、不乾淨

銅板、鈔票

東洋

酒、啤酒

買、賣

吃、吃

話、聽、看、寫

餓者、嘴乾者

大、小

多、少

長、短

遠、近

冷、熱

清爽、齷齪

銅錢、銀紙

日本

酒、啤酒

買、賣

食、飲

講、聽、睇、寫

肚餓、口渴

大、細

多、少

長、短

遠、近

冷、熱

乾淨、汚糟



速く、遅く  
 これ、あれ  
 ここ、そこ  
 どこ、どれ  
 なぜ、いつ  
 このやうに、あのやうに  
 私、私共  
 君、君等  
 彼、彼等  
 私の（もの）  
 君のもの

快快的、慢慢的  
 這個、那個  
 這裏、那裏  
 哪兒、哪個  
 怎麼、幾時  
 這麼、那麼  
 我、我們  
 僮、僮們  
 他、他們  
 我的  
 僮的

火速、慢慢教  
 地個、伊個  
 地面、伊面  
 甚地方、阿里一個  
 那能、幾時  
 格能、伊能  
 我、我佢  
 僮、僮  
 伊、伊拉  
 我個  
 僮個

快、慢  
 呢個、個個  
 呢處、個個  
 邊處、邊個  
 點解、幾時  
 咁樣、個樣  
 我、我哋  
 僮、僮哋  
 佢、哋  
 我哋  
 僮哋嘢

潯陽江頭夜送客  
 楓葉荻花秋瑟瑟  
 主人下馬客船在  
 舉酒欲飲無管絃  
 醉不成歡慘將別  
 別時茫茫江浸月  
 忽聞水上琵琶聲  
 主人忘歸客不發

昭和十四年冬

鹿兒島市大西郷南洲先生墓前で詠む

逸見十朗



### ◎ 十朗の心境

君が代は千代に八千代と小さな聲で

そぞろ 歩きの 支那の道

死ぬる覺悟で 生き永がらえて

そぞろ 歩きの 松葉枝

### ◎ 當選標語

昭和九年朝鮮總督府募集 國民精神作興之標語 第壹等入選す賞を賜ふ

入選 「強く正しく朗かに」 支那人 醫師 某

入選 「ゆるむ心にねじしめて」 半島人 某

入選 「心磨けば身が光る」 逸見 十朗

### ◎ 近刊豫告!!!

一、支那はどこへ行く 逸見後援會發行

一、支那婦人と家庭 同

一、國を舉げて (後篇) 同

一、黎明の滿洲國 (第三版) 同

一、養子はつらいもの 同

一、民族のよくばう 同

一、西太后の戀 同



祈 聖 運 長 久  
 以 皇 子 之 平 建 宗 日  
 大 日 本 旭 標 合 長 專 務 兼 執 行

祝

連續的之大勝

大日本北九州若松市

柴田又右衛門

昭和十四年陸軍記念日

祝

遠征軍之戰勝

大日本北九州若松市

平地雄幸

昭和十四年陸軍記念日



389  
48

營業課目

トキキ、内外優秀漫畫製作配給  
トキキ、出張映寫・トキキ、出張撮影  
内外優秀映寫機増幅器販賣貸附  
其他別記に關する一般の業務

合資會社 興亞洋行

福岡市上小山町一三

(博多驛前通り電車筋)  
電話東③二七〇一番  
振替福岡三五九六八番

感謝

皇軍之勇戰赫々之戰果

昭和十四年三月十日印刷第一版  
昭和十四年四月二日印刷第二版  
昭和十四年四月七日印刷第三版

【定價參拾錢】

福岡縣福岡市外米市丸町  
(工科大学前三七九番地)

編輯人兼 發行人 澁田 收

印刷人 間藤 次郎

印刷所 福岡市渡邊通四丁目 秀巧社印刷所

電話西②一八〇八番  
一八九三番

發行所 福岡市上小山町一三(博多驛通)  
合資會社興亞洋行內  
逸見後援會本部



